

心翔生

(しょうせい)

「綱領」「指針」を採択

9回会
員総会

元年度は組織強化に重点



前年度に向けて役員を選べる翌日元年度委員会

総会には各会員青年部の代表者、代理出席者ら約五十人が出席。冒頭、挨拶に立った秋原会長は、「前青連は昭和五十八年四月に発足し、本年度は創立五周年、これを記念すべき年にもなる。これを記念して本年度は各種の記念事業を実施して来た」と前置きし、創りうるべきこと、引継ぎへの準備をスローガンに掲げて取り組んで来た本年度の事業内容をほめて前青連活動の取り組み方などについて述べた。

このあとの六十三年度各委員会からの報告が行われ、総務はじめ企画、経理、組織強化、特別の五つの委員会代表から本年度に取り組んだ事業について報告があった。引き続き議事に入り、平成元年度事業計画(案)及び収支予算(案)を審議、いずれも原案通り承認された。このうち、予算規模は千四百二十九万五千円と前年度比二十一万九千円増となり、平成元年度の事業としては前青連の組織強化に重点を置き、前青連加入青年部等との親睦会を積極的に開催して加入を呼び掛けたいと、六十三年度特別委員会でも決定した「青年部活動への推進」などのフォロアップのたぐい元年度も引き続き特別委員会を設け、親睦会も組んでいくことになった。

平成元年度商青連年間スケジュール(予定)

- H1.
- 4. 6日 第35回役員会(東京)
 - 6. 7日 第36回役員会(東京)
 - 7. 27日 第37回役員会(東京)
 - 8. 2日 近畿ブロック運営研究会(津本)
 - 8. 27日 九州ブロック運営研究会(別府)
 - 9. 2日 四国ブロック運営研究会(西条)
 - 9. 8日 関東ブロック運営研究会(桐生)
 - 9. 11日 中国ブロック運営研究会(益田)
 - 9. 13日 東海ブロック運営研究会(岡)
 - 9. 22日 北陸信越ブロック運営研究会(高岡)
 - 10. 1日 東北ブロック運営研究会(青森)
 - 10. 6日 第38回役員会(東京)
 - 10. 18日 第39回役員会(高知)
 - 11. 17日 第11回会員総会(高知)
 - 第9回全国大会(高知)
 - 12. 5日 第40回役員会(東京)
- H2.
- 1. 19日 第41回役員会(浜松)
 - 2. 8日 第42回役員会(東京)
 - 2. 8日~7日 第7回中央研修会(東京)
 - 2. 7日 第12回会員総会
 - 3. 1日 機関紙「翔生」(第8号)発行
- 注)北海道ブロック運営研究会(美瑛)の開催期日については検討中。

平成元年度 会長あいさつ

石川 正一
平成元年度前青連会長



平成元年の記念すべき年に、設立から半百年を迎える全国商工会議所青年部連合会(前青連)の組織強化と前青連青年部活動による前青連活動の充実を基本に、皆様と共に考え、共に活動する機会を得ましたことは、この上ない光栄の至りです。

さて、わが国は国際化社会、高度情報化社会、高齢化社会などの到来によって、消費者ニーズの多様化が進行しており、これに刺激されて企業経営を取り巻く経済環境も大きく変化し、産業構造も転換期を迎えています。

わが国のもつような経済環境のもと、地域社会の先導的役割を担う商工会議所の果たすべき役割は従来にも増して重要になっております。また、各地商工会議所における柔軟な発想とエネルギーをシームレスに持つ青年部活動が、商工会議所活動に対し積極的に参加することを期待しております。

引継ぎの土壌となる前青連のメンバーが、次代のリーダーとして、自らの役割について認識を深め、新しい世紀に向けて地域の特色を踏まえた変換の輪を廻すことには、誠に深い敬意を込めます。

次代のリーダーとなる前青連青年部は、転換期の時代を先取りする斬新なアイデアと行動力を持って、常に経営体制の向上に努め、事業を成功させることは当然でありますが、それぞれの地域の活性化に力を傾注し、魅力ある地域の創造に心を寄せなければなりません。

特に、国際競争の激化する日本における次代の経営者として、情報分析力と先見性を養うことは不可欠とされ、優秀な会員層を、同業種・異業種で連携を持ち、併せて環境の異なる同世代の友情の絆を大切にするには、高度情報化社会への効率的な対応といえ、全国の前青連活動として高く評価されます。

私は、このよき時代の転換期における地域の活性化を図る大きな原動力として、また、次代の日本を担う青年経営者としての自覚のもとに、自己研鑽のための研修会や会員相互の親睦を深めるための諸事業に積極的に参加し、それぞれの地域を活性化させる青年部活動を展開しなければなりません。

前青連設立から7年目を迎え、各地青年部の活動が育ち、育ち、育ちと成長を遂げており、内外が深く評価されております。今年度も先賢の志の受け継ぎの功績を基礎とし、親睦会等である日商の更なる指導と協力を求め、前青連加入青年部及び青年部未加入青年部に対し、前青連未加入青年部を促進して組織強化を図り、未来の日本を築くことのできる活力ある青年部活動を展開していく覚悟でございます。

最後になりましたが、会員各位のご理解と今後のご協力を御礼申し上げます。私のご挨拶といたします。

平成元年度商青連事業計画

(平成元年4月1日より平成2年3月31日まで)

1. 総論の拡充・強化
 - (1) 各地商工会議所青年部の結成促進と前青連への加入促進
 - (2) アジア対通商研究会及び会長会議の開催
 - (3) 前青連未加入青年部上の懇話会の開催
 - (4) 前青連青年部連合会の開催と前青連結成の推進
2. 研修・研究活動の充実
 - (1) 青年部研修会並びに青年経営者としての資質向上を図り、併せて会員相互の親睦と連携を深めるための事業を行う
 - (2) 同業・異業種及び地域間交流の促進
3. 広報活動の推進
 - (1) 前青連活動の活性化を図るため、各地青年部の情報交換を促すとともに青年部活動を積極的にPRする
 - (2) 機関紙「翔生」の発行・配布
 - (3) 日本商工会議所発行の「会議所ニュース」(石川)を活用しての青年部活動状況の紹介
 - (4) 青年部活動状況調査の実施
4. 主要会議・交流会の開催
 - (1) 前青連の適正かつ円滑な運営と各地商工会議所青年部の交流を促進するための事業を行う
 - (2) 日本商工会議所役員会及び各地青年部役員・地区団体役員との交流会の開催
 - (3) 全国大会の開催
5. 政策提議活動の推進
 - (1) 日々変化する社会経済環境の変化に対応し、必要に応じて提議方針に見応、要請活動を行う
6. 「青年部への推進」等のフォロアップの推進
 - (1) 昭和四十年に各地青年部へのアンケート調査を基に、これまでの「青年部の今後の方針」(報告書)における提言の具体化、前青連への意見・要請等についての検討など、フォロアップを行う

青年部「綱領」「指針」を策定

今、なぜ、青年部の「綱領」「指針」なのか

●設定理由

昭和30年には経済会議所に青年部が設置され、全国青年部に拡大された。そして、商青年部が結成されて50年を迎えた。

このまでの活動は、純粋な試行錯誤の連続であったと言っても過言ではない。過去の活動の振り返り、これからの活動の展望、このことについて、各地青年部が、21世紀を迎えて引き継いでいかなければ、今こそ青年部は何をなすべきか、その判断基準は、何を以てすべきかを確立すべき時

見直し、これから新しく設定される青年部のために、そして私たちが活動のバックボーンとなるものは何か、活動の判断基準となるべきものを何に求めるのか。

このことについて、各地青年部が、21世紀を迎えて引き継いでいかなければ、今こそ青年部は何をなすべきか、その判断基準は、何を以てすべきかを確立すべき時

私たちが青年部の目指すものは、豊かな暮らし、地域づくり、国際社会の一員であるべき、国際人としての教養を高めよう、豊かな郷土を築くために、創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう、文化を伝承しつつ、新しい文化の創造に向けて歩を進めよう、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、力を合わせ、国の礎となろう

「綱領」「指針」を策定する意義は、私たちが青年部の目指すものは、豊かな暮らし、地域づくり、国際社会の一員であるべき、国際人としての教養を高めよう、豊かな郷土を築くために、創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう、文化を伝承しつつ、新しい文化の創造に向けて歩を進めよう、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、力を合わせ、国の礎となろう

「綱領」「指針」を策定する意義は、私たちが青年部の目指すものは、豊かな暮らし、地域づくり、国際社会の一員であるべき、国際人としての教養を高めよう、豊かな郷土を築くために、創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう、文化を伝承しつつ、新しい文化の創造に向けて歩を進めよう、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、力を合わせ、国の礎となろう

「綱領」「指針」を策定する意義は、私たちが青年部の目指すものは、豊かな暮らし、地域づくり、国際社会の一員であるべき、国際人としての教養を高めよう、豊かな郷土を築くために、創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう、文化を伝承しつつ、新しい文化の創造に向けて歩を進めよう、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、力を合わせ、国の礎となろう

商工会議所青年部

綱領

商工会議所青年部は
 地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い
 次代への先導者としての責任を自覚し
 地域の経済的発展の支えとなり
 新しい文化的創造をもって
 豊かな住みよい郷土づくりに貢献する

指針

われわれ青年部は

- 一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
- 一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
- 一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう
- 一、文化を伝承しつつ、新しい文化の創造に向けて歩を進めよう
- 一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、力を合わせ、国の礎となろう

●青年部活動の基本的な考え方

私たちが青年部の目指すものは、豊かな暮らし、地域づくり、国際社会の一員であるべき、国際人としての教養を高めよう、豊かな郷土を築くために、創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう、文化を伝承しつつ、新しい文化の創造に向けて歩を進めよう、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、力を合わせ、国の礎となろう

青年部活動への提言

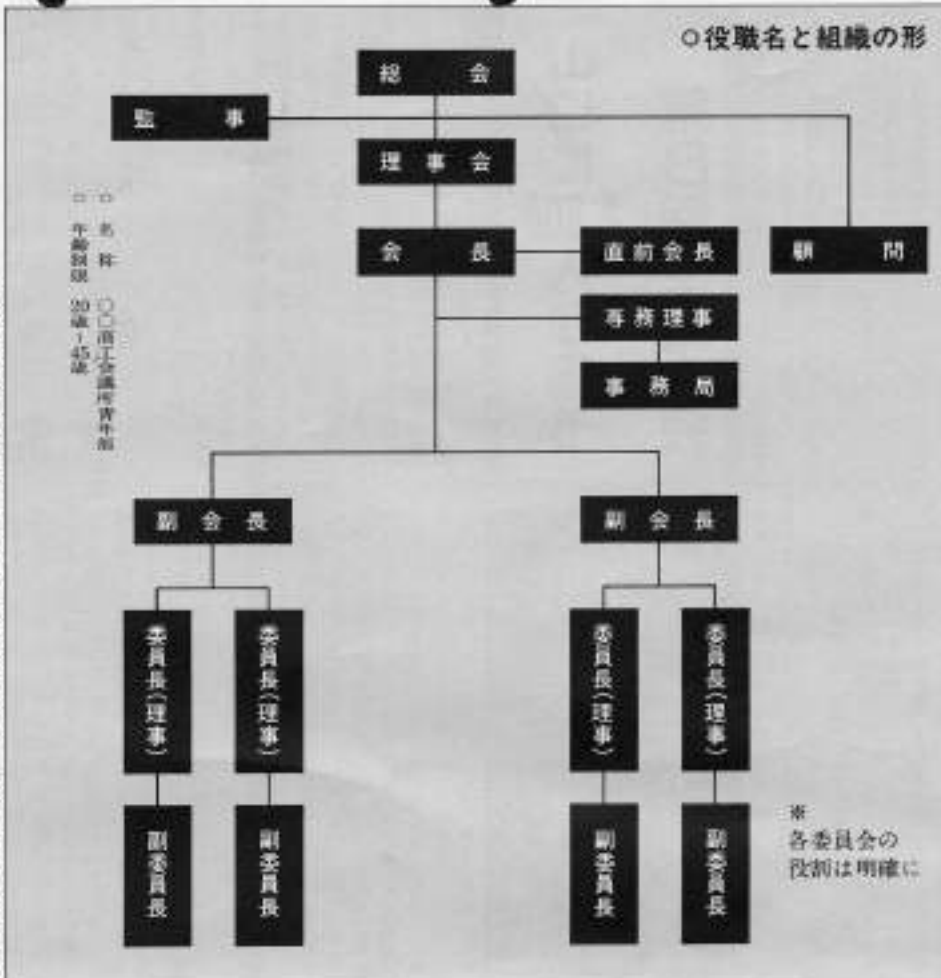
●各地青年部へのアンケート調査結果から

各地青年部へのアンケート調査結果から、多くの課題が明らかになった。その中で、最も重要視されているのは、活動の活性化と、地域社会への貢献である。また、国際人としての教養の向上も、多くの青年部員が望んでいる。これらの課題を解決するためには、まず、活動の活性化を図ることが必要である。そのためには、地域社会との連携を強化し、地域貢献の活動を積極的に展開することが重要である。また、国際人としての教養を高めるためには、国際交流の機会を増やし、国際的な視野を養うことが必要である。以上、各地青年部へのアンケート調査結果から、多くの課題が明らかになった。これらの課題を解決するためには、まず、活動の活性化を図ることが必要である。そのためには、地域社会との連携を強化し、地域貢献の活動を積極的に展開することが重要である。また、国際人としての教養を高めるためには、国際交流の機会を増やし、国際的な視野を養うことが必要である。

④ 組織と人的資源

青年部組織の名称、役員名、役員候補、事務局、委員会の設置の有無と名称、これらの組織上における統一性(この数年や長年かけて行われているものか)が、今後の青年部の発展に大きく影響する。統一性があることが、今後の青年部の発展に大きく影響する。

○役職名と組織の形



※ 各委員会の役割は明確に

◎ 青年会議所には、会長、執行部の強力リーダーシップが重要。
 ◎ 会の組織が未成熟であればあるほど強力なリーダーシップで会員をアゲイン引継ぎしていく必要がある。組織の結束は生まれてこない。言い換えば、青年部において、現状ではまだ会長、執行部のあり方によって大きく変わる環境上にある。組織が成熟するまでは、「何をすべきか」「何ができていかに」「何をすべきか」が、何かができるかを明確にし、使命感をもって会員を引継ぎ、その成果を求められているのである。

◎ 出展者の紙を委託しよう。
 ◎ 出展者の紙を委託しよう。
 ◎ 出展者の紙を委託しよう。
 ◎ 出展者の紙を委託しよう。

◎ 地域の担い手育成。
 ◎ 地域の担い手育成。
 ◎ 地域の担い手育成。
 ◎ 地域の担い手育成。

◎ 活動事業の強化。
 ◎ 活動事業の強化。
 ◎ 活動事業の強化。
 ◎ 活動事業の強化。

このためには、年功序列に頼られることなく、真に同僚意識をもち、リーダーシップを発揮する。また、執行部を推進すること。また、会員の資質でもあり、そのためには、委員会の活性化が重要。

このためには、年功序列に頼られることなく、真に同僚意識をもち、リーダーシップを発揮する。また、執行部を推進すること。また、会員の資質でもあり、そのためには、委員会の活性化が重要。

このためには、年功序列に頼られることなく、真に同僚意識をもち、リーダーシップを発揮する。また、執行部を推進すること。また、会員の資質でもあり、そのためには、委員会の活性化が重要。

◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。

◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。

◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。

◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。

若手経営者に期待する



仙台商工会議所 会頭 岩野 氏

最近のわが国経済は、個人消費の減速化はもとより、確かな情勢が予測に収まるまで物価は安定し、また設備投資も力強さを増し、企業収益も増加して雇用情勢も改善が進むなど、総じて内需主導型の景況拡大が緩やかに続いております。一方、海外では地域格差の拡大、国際競争の激化、さらには4月から導入される消費税の増徴など解決すべき問題も山積みとなっております。

加えて、情報化、技術革新、国際化、高齢化は急速に進進し、さらには経済のソフト化、ナレッジ化など社会の成熟に伴う産業構造の転換に直面しつつあります。

こうした経済環境の中において、企業が今後とも安定した成長を続けていくためには、経営の合理化、成功させるためには、成長性のあ

分野や、できるだけ既存の経営資源を有効に活用する分野など、適切な転換先を決定することが最も重要なこととありますが、基本的にはやはり人材、情報、技術及び資金などの経営資源の充実を図っていくことが大切であると存じます。

また、経営資源の乏しい中小企業においては、異業種交流が活発に行われておりますが、異業種交流は理想の転換を生み、新たな事業展開をするうえで極めて重要であり、こうした動きは今後さらに進捗するものと思われまします。

このように考えられます。これからの経営者は、時代を先取りする進取の気概と、変化への適応力を備え、経営資源を多角的に活用できるかどうかで経営を大きく左右するものとなる存じます。

こうした意味において、若者と自由な創造力をあわせ、次代を担う地域のリーダーであり、皆さまで若手経営者の果たす役割は更に重要であり、企業に携わっておりまして私どももいたしまして、そのご活躍には大きな期待を寄せております。

本年は仙台市が市制百周年を迎え、4月には政令指定都市に移行する記念すべき年でございます。当所もいたしまして、東北の中核都市としての役割を担い、大きな飛躍の年にならうと存じますが、それぞれの事業の実施に当たりましては、柔軟な発想とスキルをフルに発揮し、自己責任をもち、若手経営者の方にも参加を促した上で、時代を先取りする斬新な感覚と豊かな感性をいかんなく発揮していただきたいと思います。

全国青連の南上会連青青年部の会員各位におかれましては、これまでと変わらぬ地域経済社会の構築のためのご尽力を賜っておりますが、今後とも来るべき二十一世紀に向けて、その使命を十二分に認識され、事業を通じて地域社会の発展にご厚力されますようお願いいたします。

◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。
 ◎ 全国統一事業推進の意義。

